

(有)ドウ・カンパニー

地元作家の電子出版支援

福井のドウ・カンパニー 販売も後押し

ウェブサイトを制作などを手掛けるドウ・カンパニー（福井市）は電子出版事業に進出する。福井を中心に北陸の郷土史家、大学研究者などを作家として掘り起こす。通常の自費出版に比べ費用の安いことなどを訴える。希望する作家には専用のPR用サイトを制作、開設するなど従来の事業で蓄積したノウハウにより、販売も後押しする。

電子出版事業は2013年1月から始める。事業の名称は「セルフ・パブリッシング・エージェンツ・サービス」。書き手から一般的なワープロソフトで書かれた原稿を受け取り、電子書籍の国

際規格であるEPUB（イーパブ）に変換。紙の本同様にレイアウトや装丁を施した上で電子書店で販売する。編集と校正は同社と契約を結んだ新聞社や出版社の元編集者、定年退職

した中学・高校の元教諭に任せる。表紙の装丁は、自社でも請け負うほか、外部のデザイナーやカメラマンも起用する。電子書籍はアマゾンのほか米アップルのiTunes Store（ア

イチュンズ・ストア）やソニーのリーダーストアなど複数の電子書店に登録し、「読者の目により触れやすくする」（春貴政享社長）。

ただ、電子書店では数多くの書籍が販売されており、登録しただけでは作品は埋没してしまう。このためこれまでウェブサイトを制作で培ったノウハウを生かし、希望する作家には費用の追加負担を前提に個別の電子書籍ごとに専用サイトを立ち上げ宣伝する。あらずじや、書籍には盛り込み切れなかった写真、作品にまつわる土地などを紹介して読者の興味を喚起し、電子書籍の販売を後

押しする。作家は北陸在住、在勤の郷土の歴史研究者や料理家、自らの出版社を持たない大学の研究者などを想定している。自分史や小説、旅行記、漫画の出版を希望する個人の需要もあるとみている。

地元企業や各地の教育委員会に対し、社史や卒業アルバムなどの電子書籍化も働き掛けていこうと考えている。

通常の自費出版は「500部程度でも100万円以上かかる」（春貴社長）が、電子出版は低コストもメリット。最低限の編集と装丁、電子書店への登録だけであれば15万円前後。ウェブサイトの作製やISBNコード（国際標準図書番号）の取得などすべての作業を代行した場合でも30万〜50万円程度に収める方針だ。

例えば、全国的な販売が可能で電子書籍であれば、郷土史家の作品を読むことで、旅行先の歴史を事前に知りたいといった別の地域の読者需要にも応えられると考えている。

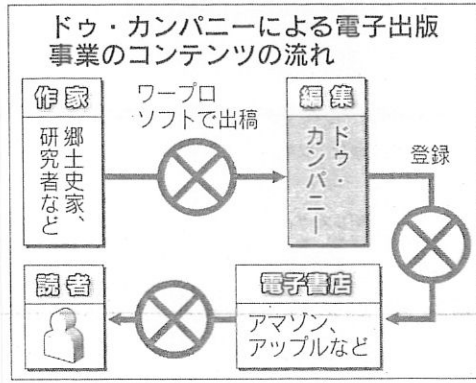
書き手が受け取る印税も通常は10%程度だが同社の電子出版では15〜40%と高いのが売り物。今後、年間10作品ほどのペースで電子書籍を出版していきたいと考えている。

多くの書籍が販売されており、登録しただけでは作品は埋没してしまう。このためこれまでウェブサイトを制作で培ったノウハウを生かし、希望する作家には費用の追加負担を前提に個別の電子書籍ごとに専用サイトを立ち上げ宣伝する。あらずじや、書籍には盛り込み切れなかった写真、作品にまつわる土地などを紹介して読者の興味を喚起し、電子書籍の販売を後

押しする。作家は北陸在住、在勤の郷土の歴史研究者や料理家、自らの出版社を持たない大学の研究者などを想定している。自分史や小説、旅行記、漫画の出版を希望する個人の需要もあるとみている。



大部分の専用端末に対応する電子出版事業にする



電子書籍はアマゾンのほか米アップルのiTunes Store（ア

イチュンズ・ストア）やソニーのリーダーストアなど複数の電子書店に登録し、「読者の目により触れやすくする」（春貴政享社長）。

ただ、電子書店では数多くの書籍が販売されており、登録しただけでは作品は埋没してしまう。このためこれまでウェブサイトを制作で培ったノウハウを生かし、希望する作家には費用の追加負担を前提に個別の電子書籍ごとに専用サイトを立ち上げ宣伝する。あらずじや、書籍には盛り込み切れなかった写真、作品にまつわる土地などを紹介して読者の興味を喚起し、電子書籍の販売を後

押しする。作家は北陸在住、在勤の郷土の歴史研究者や料理家、自らの出版社を持たない大学の研究者などを想定している。自分史や小説、旅行記、漫画の出版を希望する個人の需要もあるとみている。

地元企業や各地の教育委員会に対し、社史や卒業アルバムなどの電子書籍化も働き掛けていこうと考えている。